

## 第4回北九州市自治基本条例に基づく市政運営の評価検討委員会

- 1 日時 : 令和元年10月8日(火) 10:00~12:00
- 2 場所 : 北九州市役所本庁舎5階特別会議室A
- 3 出席者: 委員7名、市側13名 計20名  
〔委員〕安部 高子 株式会社ケイ・ビー・エス 代表取締役  
倉地 ひとは 公募委員  
中村 啓子 北九州市婦人団体協議会 理事  
宮地 久男 北九州市自治会総連合会 会長  
森川 妙 北九州ESD協議会 コーディネーター  
八幡 圭治 公募委員  
湯浅 壘道 情報セキュリティ大学院大学 学長補佐  
  
〔事務局〕山本 浩二 総務局総務部長  
井上 美紀 総務局総務課長  
増田 真二 総務局総務課総務担当係長  
川原 記和 総務局総務課主査  
ほか、市関係課から11名が出席
- 4 傍聴者: 無
- 5 議事: (1) SDGsについて  
(2) 答申(案)について  
(3) その他  
・次回の会議について
- 6 議事内容

### 総務課長

ただいまから、第4回北九州市自治基本条例に基づく市政運営の評価検討委員会を開催いたします。

本日、森副委員長が急遽欠席となりましたが、7名の委員にご参加いただいております。定足数に達しておりますので、会議は有効に成立しているということをご報告いたします。

それでは、ここからの進行につきましては、湯浅委員長にお願いいたします。

### 湯浅委員長

皆様おはようございます。

前回と前々回と、自治基本条例に基づく市政運営の状況を一通り議論したところです。本日から、まとめの議論に入りたいと思います。

はじめに、7月の第2回委員会で、「都市の魅力発信」を色々ご議論いただいたのですが、その時に、今日資料を用意していただいている、SDGsのことが少し話題になったところです。

今、SDGs未来都市として、北九州市の都市ブランド向上を図っていますが、まだ認

知度があまり高くなくて、課題があると聞いております。

よって、都市ブランド向上に向けた取組として、SDG sについて冒頭議論します。

森川委員や倉地委員はSDG sに関する活動を実践していると思いますし、その他にもよく知っているよという方がいると思いますが、市としてSDG sにどう取り組んでいるのかを事務局から説明をお願いして、その後、議論をしたいと思います。

## SDG s 推進室次長

皆様おはようございます。

企画調整局SDG s推進室の上田と申します。

今日は、北九州市のSDG sの取組みについてお話をさせていただきたいと思います。

2015年の9月に国連加盟国193ヶ国が、全会一致で採択した、いわゆる国連のアジェンダというものです。

実はSDG sが始まる前に、MDG sというものがありませんでした。

MDG s (Millennium Development Goals) で、当時は飢餓や貧困など、開発途上国が中心となる国連の目標だったのですが、2000年から2015年まで、15年間の目標としてやってきました。その中で、経済格差や気候変動など、色々な貧困を起因とする様々な問題が勃発し、これは先進国も一緒に取り組まなければならないということでスタートしたのが、このSDG sです。

17の目標・169のターゲット・232の指標から成り立っています。

このSDG sの考え方ですが、経済・社会・環境という3側面で色々な問題の解決を図っていこうというものです。

ここに「トレードオフはだめ」と書いていますが、例えば、経済発展するために環境を破壊すること、劣悪な雇用状況の中で経済発展することは「だめだよ」ということです。何か成功するために何かを犠牲にするという考えではなく、トレードオンという形で社会課題を解決しなければならないということが、SDG sの1つの肝です。

また、電球の絵が描かれていますが、17のゴールがあり多いなという印象があるかもしれませんが、1つの課題を解決していくことで他の課題も解決していくものです。

もしくは、1つの問題が解決していくことで様々な課題と結びついているということで、この社会の変革を考えていくものです。

つまりSDG sの考え方は、これまでの社会をチェンジするのではなく、トランスフォームしていくことです。

北九州市は、もともと環境に関しては、公害克服のプロセスがかなり評価されており、国内外からも非常に高い評価を頂いております。

外務省の「ジャパンSDG sアワード」の特別賞を受賞したり、世界的にもOECDから、モデル都市に選ばれたり、それから第1号の「SDG s未来都市」に昨年度選ばれ、補助金を頂きながら、色々なモデル事業でSDG sを進めており、北九州市はSDG sで評価を受けております。

評価を受けている背景としては、1960年代の深刻な公害問題を「産・官・学・民」を挙げて、特に市民の方の市民力をベースとして、この公害問題を克服したというプロセスがあるからです。

さらにこの成功モデルをパッケージ化して、環境国際ビジネス、環境国際協力という形で世界にも広げているところが、高い評価を受けている要因です。

「じゃあ行政としてどういったことをやっているのか」というところですが、いくつか

特筆すべきところだけお話をさせていただきます。

まず「女性活躍」です。女性活躍に関しては、政府が2020年に、「責任ある地位の女性の方たちを30%にしていきましょう」というお話があります。

現実的には北九州市もまだ約14%なので、中々そこに及んでいませんが、北九州市の女性が働くという時に、AIMに「ウーマンワークカフェ北九州」というものがあり、国・県・市が一体となって、女性が働くことをワンストップで支えるという、いわゆる全国初の仕組みをとっております。

これは、非常に国内外からも高い評価をいただいております、北九州市が誇るべきシステムだと考えております。

また、北九州市の附属機関における女性の参画率が50%以上というのも、政令指定都市の中では初めてのことです。

今後の課題は、北九州市が市役所としてリードしていくためには、女性管理職を増やしていかなければならないことです。

「子育て環境の充実」についてです。北九州市は、合計特殊出生率は政令市の平均が約1.43ですので、それよりも高い出生率がありますが、一方では、産んだらそれでいいのかということではなくて、「出産した後の環境を整えていきましょう」ということで、特に子ども食堂は民間の方たちがよく頑張ってくださっていますが、留守家庭以外のお子さんを受け入れてほしいという時の放課後児童クラブの全児童の受け入れであったり、24時間体制の小児救急医療の病院が市内に4箇所あるのも非常に珍しいですし、1歳児のお子さん5人に対して1人の保育士というのも全国的にも非常に高い保育水準でありますし、各区に保育コンシェルジュを設置しているというのも非常にめずらしいことです。

約400を超える官民を挙げた授乳やおむつ替え等ができる施設の「赤ちゃんの駅」を設けているというのも、子育て環境について、非常に充実させているところです。

北九州市は高齢化率が約3割ということで、これも全国の自治体、政令市の中でも高い割合となっています。

この高い高齢化率をネガティブに捉えるのではなくて、元気なシニアの方に、この社会でもう1回活躍していただく場をつくっていくということ、例えば「生涯現役夢追塾」これは50歳以上の方たちが、ご自分たちの知見とか、今までの技術をもう1回社会にどうやって還元していくかということをご自分たちで学んでいくものです。

このような高齢者を求めている方たちとマッチングしていくための「いきがい活動ステーション」を設けております。

北九州市は非常に医療関係が充実しておりますので、そういう意味では高齢者の方たちにとって、非常に住みやすい場所ということになり、住み続けられるまちということで、11番のゴールにグリップしていると思います。

北九州市は、「経済・社会・環境」という3つで底上げしていかなければいけないのですが、実は経済というところが、若干弱いと外部からも指摘されています。

そこで、北九州市は新しいビジネス、新しい産業を起こしていこうと力を入れているのが、「洋上風力発電」です。

若松区の響灘で、平成22年から風力発電の関連産業の総合拠点の形成を目指しております、ものづくりのまちですので、風力発電の輸出入から製造、保管、メンテナンスそれから組立等々を、物流機能も揃っていますので、ここでワンストップで色んなことができる場所を強みとして、これを1つの北九州市の商品として、国内外にも売り出していこうということのでがらばっております。

ロボットを活用した生産性の向上ですが、安川電機がありますが、女性の活躍や障害者、高齢者の方たちの活躍を色々とバックアップするためには、ロボットやAI等を導入することによって、環境にも人にも優しい、そのような労働環境をつくっていこうということで頑張っています。

北九州の強みである環境を1つの稼ぐツールとして、環境国際ビジネスということで、国内外で北九州市の高い環境力、それから市民を挙げて、公害問題を克服していったというところを、海外でも売り出していこうということで、経済面をバックアップしています。

市民の方の動きとしては、まず子ども食堂が非常に特徴的です。

地域の方たちが地元の子どもの食生活の充実、健康的な生活をサポートしようと、子ども食堂を立ち上げていますが、実は実際私も子ども食堂でボランティアを続けているんですけども、子ども食堂は、小・中学生の方に食事を提供する場所である一方、そこで大学生が宿題を見たり、調理する方たち、高齢者の方たちが多いんですけども、現役を引退したシェフの方とかが来て調理しています。子ども食堂と一概に言いながらも、様々な方たちの交流拠点になっているということで、非常にSDGsに繋がる取組みということで、ご紹介させていただいているところです。

魚町商店街は、横断歩道にエコループをつけたり、省エネを取組んだり、商店街の中でしかできないこと、これだけ人が集う場所を、非常に有効的に活用させていただいて、例えば規格外のためスーパーで引き取ってもらえないような野菜を販売する会社を誘致したり、リノベーションを進めたり、店主の方が得するまちのゼミナールというものを開催して、色んな方面で技術や知見を伝授する等、全国でも商店街でSDGsを掲げているのは多分、北九州市の魚町商店街だけだと思います。

この商店街のSDGsの取組を、OECDの方々が視察したり、ドイツの財団も視察していましたけれども、非常にユニークで、先進的だということで評価を受けています。

市民センターは、市内に130箇所ありますが、すべての市民センターの館長を公募しております。

私たち役所の人間が、OBで館長をするのではなく、民間の方々から、そのセンターの館長を選んで、地元の方々、まちづくり協議会や自治会の方々と地域ごとの課題を話し合いながら、その地域ごとの市民活動をみんなで考えていく、そして活動していくということで、やはりSDGs的なところでいくと、自分たちのまちを自分たちでプロデュースしていく、いいまちにしていこうということですので、非常にこれも高い評価をいただいています。

こういった市民の方たちの動きは、かなり活発になっているんですけども、経済分野が弱いので、できれば経済界にSDGsの取組みを浸透させていきたいなというところで頑張っております。

中小企業の方が多い北九州市ですが、企業がSDGsに取組む意義を考えた時に、日本経団連が、2017年に「Society 5.0」の実現を目指し、SDGs達成に向けた貢献につなげていこうということで「企業行動憲章」というのを改定しております。

これによって大企業、グローバル企業は、SDGsを踏まえたところでの企業変革をやっております。

今までの経済的価値から、「ESG投資」、環境や社会とかガバナンス等に配慮したところに投融資が集まってくるとか、それからダイバーシティであったり健康経営というところに、企業価値というものが評価されつつあります。

これによって、学生たちも企業を選ぶ時に、1つの新しいモノサシとして見ているとい

うところで、企業のほうもこのSDGsというものを意識していかなければいけないという話をしています。

SDGsに取り組むことによって生まれるメリットは、企業ブランドの向上であったり、新たなビジネスチャンス、それから企業の活動を17のアイコンにグリップしていくことで、何が課題なのか、どうやって変革していくのかというものが見えてくると言われています。

最後になりますけれども、「北九州SDGsクラブ」というものを立ち上げております。

SDGsクラブは、SDGsの考え方の大きい要素の1つとして、誰かだけがSDGsを達成していくのではなくて、色んな方たちとのコラボによってシナジー効果を生み出していくというのがSDGsの肝です。

そういう意味では、このクラブで、企業の方とか団体、市民、学校、それから行政も含めて、様々な方たちがここで集うことによって、シーズとニーズが色んな形でうまく融合して、そして新しいビジネスモデル、それから成功モデル、北九州市の地域課題の解決につながるようなモデルを生み出していこうということで、現在700を超える方たちが会員として集っています。

ここから、また新しい公害克服の時にあったような形で、1つの問題をビジネスチャンス、もしくは課題解決につなげていって、それを国内外にまた発信できるような形を模索しているところです。

これをすることによって、「SDGsに取り組んでいるんだ」、「うちのまちはSDGsだ、すごいぞ」ということを、北九州市のシビックプライド向上につなげることによって、都市ブランドの向上につなげていきたいと考えています。

教育大綱というのを、今年度改定しております。公立の小・中学校をはじめ、北九州市の教育の現場で、「SDGsの視点を取り込んだ形で教育を進めていきましょう」という教育大綱ができております。今年から5年間の教育大綱です。

この教育大綱にこのSDGsという言葉盛り込んでいる自治体は、ほぼないと思いますし、これで、小・中学校はかなりSDGsの教育が進んでいくと思います。

皆さんのお手元に漫画をお配りしてまして、これは昨年度つくったもので、中学生以上にお配りしているものです。SDGsというものを非常に分かりやすく伝えているということで、非常に評判がいいです。今もあまりにも出ているので、増刷をしています。

来年度公立の小学校3年生には「SDGs副読本」が全児童に配られます。

それから高校に関しては、北九州市域で、37校の高校がありますけれども、その中で19校が既にSDGsを取り入れた学習のカリキュラムを組んでやっています。

高校も学習指導要領を文科省が変えたということで、総合的な探求の時間ということでこのSDGsに取り組もうということで、市内の高校が取り組んでいますし、市内の大学も、このSDGsを1つ研究テーマとして掲げて勉強している大学も増えてきており、教育現場はかなりSDGsが浸透し始めているので、私たち大人であったり、企業であったり行政であったりが、もうSDGsを知らないよというふうな時代ではなくなっています。

そういう意味では、SDGsというのを1つの北九州市の強みとして、都市ブランドやシビックプライドの醸成につなげていきたいと思っております。

以上で説明を終わらせていただきます。

## 湯浅委員長

どうもありがとうございました。

前回、SDGsという取組は素晴らしいんだけど、それが具体的に市民の皆さんにどう関係がありますかとか、その企業にどういうメリットがありますかというような、ご意見もあったので、その辺を中心に説明をしていただきました。

では、SDGsと市のブランディングの関係等について、委員の皆様から、ご質問あるいはご意見をお願いします。

森川委員とか、倉地委員は、実際関わっていると思うので、自分の関わりのところを少しご紹介いただく、あるいは何か補足していただくということでも結構です。

## 森川委員

現在、魚町商店街でSDGsを進めています、一番最初にお話しを持っていった時には、本当にSDGsを知っている方が誰もいなかったという状況でした。その時に言われたのは、すごくいい目標なんだけれども、「何をしたらいいのかが分かりません」と言われたのがすごく印象に残っていて、確かにそうだろうなというのをすごく感じました。

やはり事例をたくさんつくって、「こんなことができるんだよ」という発信をする場所として、魚町商店街を展開していったらいいのではないかとということで、実践を積んでいるところです。

10名程度のコアメンバーの中から、例えば災害があった時には、魚町商店街でどんなことができるんだろうかという課題等を、イベントやバル等の場所で、時にはお酒を飲みながら、時には真面目に市役所の危機管理室の方を呼んで、防災について学んでみたりしています。

日々の自分たちの生活の中にある課題であったり、やっている取組みについての実践例というものを、積み上げているという段階です。

正直言うと、まだまだ市民の方には、そんなSDGsというものが知られていないんですけども、北九州市って本当に素晴らしく、SDGsという言葉はなくても、活動している方々がたくさんいますし、家庭の中でも、例えば分別に取り組んでいる方も多くて、おそらく持続可能な社会に向けての活動をずっと行ってきたと思います。

SDGsが出てきてくれたことによって、それらに見える化できたというのが、SDGsの一番素晴らしいところじゃないかなと思っていて、それをどんどん進めることによって、北九州市のブランディングをうまくやっていけるんじゃないかなと私は考えています。

## 湯浅委員長

ありがとうございます。

他の皆様はいかがでしょう。

私見ですが、北九州市は環境モデル都市であったり、以前から、環境を売りにしてきたし、非常に住みやすい環境を実現してきたと思うんですね。

一方で、環境さえよければいいということでもなく、市としての経済発展だとか、あるいは市の活力、経済的な活力などと、暮らしやすい環境を両立させることが、長年の課題だったような気がします。

その環境をビジネス化するため、色んなことを取組んできたんだけど、なかなかビジネスになりにくいという面があったかと思います。

しかし、SDGsは、環境も含めた持続可能性とともに、例えば8番の「働きがいと経済成長も目指していきましょう」とか、9番「産業等技術革新の基盤をつくきましょう」ということだと思っています。

そして、11番「色々な意味で住み続けられるまちづくりをしていこう」ということで、まさに北九州市が目指してきたことに非常にマッチしているし、更に経済発展その他を目指していこうということで、経済界の方々にも受け入れていただきやすいものだと思います。

だから個人的には、ぜひもっとSDGsの取組みで、北九州市が有名になっていけばいいなと思います。

後ほど、SDGs関係でご意見、ご質問いただいても結構ですので、先に進ませていただこうと思います。

続きまして、議事の2番目、答申案についてということに移らせていただきます。

第1回から第3回まで皆様にご議論いただきまして、それから私と今日ご欠席の森先生、事務局で、皆様方のご意見を、反映をさせるように協議をしまして、答申案の骨子というものをまとめております。

お手元の資料、横長の資料3ですね。

これを見ていただきまして、今までの議論を振り返って、ここが抜けているとか、漏れているところであるとか、ここはもっと深めるべきというようなことを確認して、最終的に答申を仕上げていくことができればと思っております。

最初に答申案の骨子について事務局のほうから説明をお願いしたいと思います。

## 総務課長

それでは、私から、答申案の骨子についてご説明させていただきたいと思っております。

A3の資料をご覧ください。

この資料はこれまでの議論を踏まえて、当委員会の答申の案の骨子を委員長、副委員長とご相談の上、まとめさせていただいております。

1から6の条例の見直しまで項目を立てておりますが、これが最終的に取りまとめたただく、答申の基本的な章立て、構成となります。

まず、「1 はじめに」は、本委員会設置の趣旨、役割、構成等についてです。

「北九州市自治基本条例に基づく市政運営の評価検討委員会」は、北九州市自治基本条例の第29条の規定に基づき、市政が条例の趣旨によって運営されているかを評価し、条例について、必要な見直しに関する事項を、調査審議するため学識経験者、公募委員の他、8名により構成されているとしております。

「2 評価方法等」、こちらのほうは条例の規定を踏まえた、本委員会における具体的な評価の方法についての記載です。

条例の規定に基づく市の取組み、制度や事業などが、条例の趣旨によって運営されているかどうか、市民自治の確立に寄与するものとなっているかを、制度や事業等の整備、運用状況や実績数値、関連する市民意識調査の結果も踏まえ、評価を行ったとさせていただきます。

「3 委員会スケジュール」は、審議経過についての記載です。

こちらに記載のとおりとなっております。

「4 市の取組み等について」、こちらのほうは、市における条例の規定に基づく制度や事業等の取組み、及び関連する市民意識調査の結果についてです。

実際の答申では、第1回から第3回までの会議でご説明した、具体的な市の取組みを盛り込んだ形で記載したいと考えております。

まず、(1) 総論、市は、条例に対する理解を深めるため、子どもたちに対して中学3年

生用副読本を作成配布する等、市民や市職員への広報及び研修に努めている。市民意識調査によれば「条例の認知度」は3割強となっている。

(2) 情報共有、市は、多様な媒体や方法で情報提供を行っており、市民意識調査によれば「より分かりやすく、情報を整理して発信してほしい」「情報を入手しやすいように、色々な媒体・場所で発信してほしい」が多く、約4割となっている。

(3) 市民参画、市は、様々な市民参画の制度を準備して市民の意見を聞いているが、市民意識調査によれば「北九州市の市政に関心がある」が約7割となっている一方、「市政に関心がない」も前回調査と比較して微増している。

(4) コミュニティ、市は市民主体のまちづくりを実現するため、様々な取り組みを行っている。市民意識調査によれば、「住民主体のまちづくりが必要と思う」と回答した人は、約9割となっているが、実際に地域活動に参加した経験がある人の割合は、約半数程度となっている。

参加しない理由としては、地域団体や活動に関する情報が不足しているとの理由が4割弱と1番多くなっている。

また、これからの地域活動を支える大切な団体は「自治会・町内会」と回答した人が一番多い(74.8%)が、自治会・町内会に加入していない人にその理由を尋ねたところ、「加入を進められたことがない」(31.8%)「加入しなくても日常生活に支障がない」(30.3%)「住んでいるマンション等の集合住宅そのものが加入していない」(30.3%)との回答が多くなってございます。

資料の右側をご覧ください。

「5 評価等について」、「6 条例の見直しについて」は、本委員会として見解を示す答申の柱となる部分になります。

それでは、「5 評価等について」は、詳細についてはですね、後ほどご説明いたしますが、これまで委員会で出された課題、またこれを改善していくための見直しの方向性を(1)時代の変化に対応した新たな取組について、(2)情報共有・市民参画、(3)コミュニティという項目ごとに整理して、記載したいと考えております。

「6 条例の見直しについて」は、条例の第29条に市政がこの条例の趣旨に沿って運営されているかどうかを評価し、この条例について必要な見直しを検討すると規定されておりますので、答申の中で条例を見直すべきかどうかということについての、委員会としての見解をお示しいただければと考えております。

なお、現在記載させていただいておりますのは、本委員会でのこれまでの議論を元に事務局において案として作成させていただいているものでございます。

北九州市では、まちづくりの基本ルールである「北九州市自治基本条例」の趣旨を踏まえ、市民主体のまちづくりを実現するため、情報共有や、市民参画、コミュニティに対する支援などの取組を進めている。

「北九州市自治基本条例」は、市が目指すべき自治の姿を明確にしたものであり、本条例に規定された基本理念や自治の基本原則に基づいて市政を運営しているが、制定から約10年がたち、時代の変化に伴い、当初想定していなかった新たな地域課題などもみられ、それに対応した取組を求められている。

本委員会では、市の取り組みが、条例の趣旨に沿って運営されているかどうかについて、真摯に議論し、様々な課題を指摘した。

しかし「北九州市自治基本条例」は、長い時間をかけ多くの市民が関わり議論を重ね、創り上げられたものであり、そこで示される理念を修正しなければ個々の課題の改善が困

難な場合に限り「条例改正」を行うべきであると考えます。

今回の議論においては、その課題は「条例改正」という方法ではなく、市民、議会、行政が、条例を意識しながら、まちづくりや市政運営に取り組むことにより、解決していくことが可能とした。

したがって、本委員会として、現時点では「条例の見直し」は必要ないと結論付けるものであるとさせていただきます。

事務局としては個々の具体的な課題について、それぞれ個別に定められております条例の改正で対応するものであり、自治基本条例については、市民自治を推進するための現在の市の取り組みが不足している、条例を改正しなければ、取り組みを進めることが困難な場合、こういった場合に改正を要するものというふうと考えております。

たくさんの市民の方々が、関わって制定いたしました自治基本条例の理念は、今の時代においても引き続き尊重すべきとした上で、これまでの委員会の議論を踏まえまして、条例自体を見直すことよりも市の様々な取り組み、これを条例の趣旨により反映させた形で、進めていくことが大切と考えまして、このように記載させていただいております。

続きまして、資料3-2をご覧ください。

先ほどご説明した、「5 評価等について」の部分を取りまとめるにあたって、これまで、委員会における、ご意見課題及び見直しの方向性の案を整理させていただいております。

大きく3つの項目に分けておりますが、1つ目は、時代の変化に対応した新たな取組についてということで条例が施工されて約10年が経過しますが、当初は想定していなかった新たな課題などに対して、市として様々な取組を行っております。

こうした取組に対して評価するものです。

今回の議論では「SDGs」、「魅力発信・都市ブランド向上」を取り上げさせていただいております。

まずSDGsに関する見直しの方向性については資料では現在空欄とさせていただきます。

本日いただきました意見を参考に、委員長・副委員長と相談しながら今後の見直しの方向性を検討したいと思います。

また、魅力発信・都市ブランド向上に関する委員会の意見としましては、

- ・北九州市は対外的にうまく地域の魅力を伝えるのが苦手。
- ・他都市と比較しても色々と熱心に情報発信を行っている。
- ・ヴァーチャルユーチューバーの活用は情報発信において有効である。
- ・北九州市出身の声優やキャラデザイナーなどに協力してもらえるとよい。
- ・都市のブランディングで、様々なことを一生懸命されているが、バランスが悪い。
- ・全体的なブランディングとして、もう一工夫必要。
- ・都市ランキング1位、といった広報も、データに基づいて周知しないと説得力がない。
- ・北九州市にはどんな魅力があり、どう情報発信していくかについて、改めて検討が必要。
- ・市民が誇りを持つとともに、市外の方が北九州市のいいところを知れるような、両方を同時に満たすようなブランディングを行う必要がある。

というふうに整理させていただきました。

これに対する見直しの方向性の案としては、「地域の魅力を効果的に伝える戦略的広報の推進」、「都市ブランド確立に向けた取組みの強化」を挙げさせていただいております。

次に、情報共有・市民参画における広報事業に関する委員会の意見としては、

- ・市政だよりは重要なツールであり、IT化が進んでも紙での発行をぜひ続けてほしい。

- ・ホームページは重要だが、北九州市を知らない、知ろうと思わない人たちも知るきっかけとなるような活用の仕方をSNSなどで広げていくべきでは。
- ・LINE等SNSは地域における世代間のコミュニケーションツールとして有効である。
- ・SNSやPR動画など様々な取り組みを行っているが、課題は若い世代にどう伝えていくか。
- ・情報化が進み、刻々と変化する状況にどう対応していくか。
- ・市は様々な情報発信ツールを活用して広報に取り組んでいるが、ツールの特徴を活かした広報のやり方が必要。

と整理させていただいております。

これに対する見直しの方向性の案といたしましては、「情報化・IT化等、時代の変化に対応した情報発信方法の実現」「各種情報発信ツールの特徴を活かした訴訟力のある広報」を挙げさせていただいております。

広聴事業に関する、委員会の意見といたしましては、

- ・市民参画に関心のない方が増えてきている一方で、地元への愛着は大変強い。
- ・市政への関心は10・20代が低いのは仕方ないが、30代もかなり関心が低い。
- ・情報共有においてSNSが主流になっていく中で、AIチャットボット等を活用していくべき。

と整理させていただいております。

これに対する見直しの方向性の案として、「若い世代への市民参画推進」「情報共有手段としてのAI技術の活用」を挙げております。

次に、コミュニティにおける多文化共生に関する委員会の意見としましては、

- ・市民自治を確立していく中での外国人の位置づけ、役割をしっかりと検討すべき。
- ・外国人住民に対して、日本（北九州市）の生活ルール等をしっかりと伝えるべき。
- ・外国人住民に生活ルール等を伝えることについて、自治会の役割は重要。
- ・ルールを伝える際には、文化や習慣の違う外国人住民がきちんと理解できるように配慮すべき。
- ・外国人住民がうまく地域コミュニティに関わっていけるような取組が必要。

と整理させていただいております。

これに対する見直しの方向性の案としまして、「外国人住民への生活ルール等、情報発信の強化」「地域コミュニティへの外国人住民参画促進」を挙げさせていただいております。

最後に、地域コミュニティNPOに対する委員会の意見としましては、

- ・自治会の担い手づくりが課題である。
- ・自治会の今後を考える上で、リーダーの資質は重要。
- ・自治会の役員になりたくない人が急激に増えてきている。
- ・町内会長が様々な役割を担わされ、大変忙しい状況である。
- ・防災への対応を通じて、自治会や地域に関わる意識が高まった。
- ・自治会をはじめとする地域の組織が複雑で分かりづらい。
- ・社会状況の変化にあわせ、自治会も変革していくべき。
- ・自治会加入率不信にはそれぞれの状況（入会しない理由が「入会の仕方が分からない」「活動の内容が分からない」等）に合わせた勧誘を行うことが有効。
- ・自治会に入るメリットを示すことができるとよい。
- ・住民基本台帳上の市民だけではなく、広く本市に関わりのある方々も巻き込んでいかないと、様々な問題に対応できない。

- ・条例の中に「協働」の概念は含まれている。
- ・NPOの高齢化が進み、新しい人材が出てきていないのではないかと整理させていただいております。

これに対する見直しの方向性の案といたしましては、「まちづくりを担う人材の育成」「地域コミュニティにおける防災対策の推進」「社会情勢の変化に合わせたまちづくり団体等の見直し促進」「今後10年先を見据えた、地域と連携したコミュニティ活性化に向けた取組みの強化」を挙げております。

以上で、評価検討委員会の答申案骨子の説明を終わります。

### 湯浅委員長

今日ご説明いただいたところを踏まえまして、この答申案についての議論に入らせていただこうと思います。

皆様にご議論いただくポイントが3つぐらいあるかなと思います。

1つ目は、全体の構成としてこれでよいかという部分。

2つ目は、一番肝心なところで、この委員の皆様の評価をしていただいたわけなので、その評価の部分がこれでよろしいでしょうかという部分ですね。

最後が、全体評価をしていただいた上で、この条例を改正する必要があるかないかという部分ですね、それが3つ目かなと思います。

答申案全体の構成として、お気付きのところがあれば随時ご指摘をいただければと思います。

今日残りの時間で、一番肝心な「5 評価等について」のところですね、これでよろしいかということと、条例の見直しのところを議論をさせていただこうと思います。

答申案全体の構成について、北九州市のこういう答申とか報告書の傾向なんですけれども、ここをもっともっとこうしないといけないとか、ここがうまくできていませんとか、そういうことは真面目に書いてあっていいんですが、「ここはちゃんと自治基本条例に基づく市政運営としてできています」と、だからこれはもっと今後もやっていくべきなんだっていうことも、プラスの評価として書いていたほうが良いと思います。

ここがまだ課題です、あれが課題ですというのが羅列されている印象があるので、できていることはきちんと書いて評価したほうが良いんじゃないかなというのが感想です。

これまで、北九州市の市政が自治基本条例に基づいて、その趣旨に沿って運営されているかどうかということの評価について話し合ってきたわけです。

ここで、まだ追加してコメントがあるとか、逆にこの評価としてこういう評価を加えたほうがよいとか、色々ご意見あるかと思っておりますので、どこの部分からでも結構ですので、ご意見いただければと思います。

それからSDGsについては、今後の見直しの方向性も決めないといけないので、ご意見がありましたら、ぜひお願いしたいと思います。

宮地委員からコミュニティ、自治会とか町内会の辺りの書き振りにつきまして、ご意見はありますか。

### 宮地委員

ここに評価の部分とこれから方向性を挙げていただいております。

内容を見てこういうこともあったなど、再確認させてもらっています。

最終的には行政とは別に、地域がどれだけ成長するかっていうところだと思うんですよ。

その時に軸になるのは、自分たちのことばかり考えるのではなくて、次世代、その次の後世のことを考えていくと、SDGs とつながる部分あるのではないかと。

私の住んでいる地域では、やっている活動がSDGs のどこにつながっているのかを、みんなで確認し合いましたと言っています。

「海の豊かさを守ろう」というのがありますが、海だけを守ればよいのではなく、山から川を経て海に行く過程を考えないといけないだろうというような、広げた形で物事を考えられる活動を、話し合いながら進めていくことが大事かなと思います。

子どもたちと話す機会が少ないですが、そういう機会も少しずつ増えています。

自治基本条例は、最終的には、地域がどれだけ考え方を語り継ぎしていけるかが、大事だろうと思います。

### 湯浅委員長

ありがとうございます。

こういう地域活動が色んな世代が交流する場としての役割を果たしていけるように、コミュニティが機能するということが重要だと思いますね。

今のお話も、答申の中に書けるようにしていくといいですね。

コミュニティのところは、特に外国人のこととか、安部委員から色々ご発言いただいて、SDGs のところも経営、北九州市財界の一員でもいらっしゃいますので、どちらでも、あるいは両方でも結構ですので、ちょっと安部委員のご意見を伺わせていただきたいと思います。

### 安部委員

SDGs というのは、市内の企業も国内のみならず世界との競争になっているわけですから、いち早く認定された、この北九州市のSDGs をもっと企業に浸透させるということ、そのために「浸透しているよ」、「もうやっているよ」というところを表彰するのもいいし、企業を表彰すると、「何かこういういいことがあるよ」というような有形・無形のものは、大企業でも欲しいと思うんですよね。

中小企業だったら、親会社がしているから自分たちもやらなければならないとなると、もっとスピードが速くなるのかなと思います。

本当に私自身このまちって最高に住みやすく、素晴らしいまちだなと思いますから、その素晴らしさを、SDGs という形で世界にもっと広く宣伝していく必要があるということ、そのためには、企業に強烈に投げかけてもいいのではなからうか思います。

それと、コミュニティの件ですが、私自身も「町内会長さん長いよね」、と感じる時があるんですよ。この方は10年以上なさっているんじゃないかなと。

こういうところに、コミュニティがうまく機能できていない理由があると思うんですね。

だから、町内会長の決め方のルールづくりとか、町内会がどのように町のために役立つのかを示す評価方式があってもいいのではないかなと思います。

地域によって、商業地域であったり住宅地域であったり、過疎地であったり、それぞれ違います。コミュニティには、必ず地域をまとめる人たちが必要だから、レジュメ等を作成して、年に半年ずつでも交代していただくと、つないでいくことの大切さは重要だとわかるのかなと思います。期限があることが、望ましいのではないかなと思います。

私の住んでいるところは、町内会長は10年以上同じ方です。他の役員も高齢者になっていて、この人たちがどこまで活力ある町内活動をしているのかなと疑問に感じるものが

あるんです。

### 湯浅委員長

SDGsについて、事務局から、現状の表彰制度だとか、将来的に市の入札の総合評価のインセンティブを与える等の考えがあれば、事務局から補足していただければと思います。

### SDGs推進室次長

SDGsは分かりづらいところもありますが、SDGs的な市民の活動であったり、企業の活動は、ほぼこの17に実はグリップされていくんですね。

ですので、これらを見える化するということで、今年から、「SDGsアワード」という表彰制度を設けまして、年度末に表彰をさせていただきます。現在、募集期間中です。

それは市民の方の活動であったり、企業の方の活動であったり、様々な方たちが応募しています。

特にSDGsアワードで表彰された企業は、産業経済局の中小企業振興課の「新成長未来資金」という融資制度で優遇するようなシステムを今年度から取っており、その辺をさらに広げていきたい。

他都市では、SDGs認証制度というものを設けているところが実際ありますので、それが足かせにならないような形で、「SDGsがんばっているよ」というのが分かるようないわゆるマークをつくってみたりといったことを考えています。

### 湯浅委員長

多分、まさに安部委員さんご指摘のように、企業の皆様方に取り組んでいただくために、表彰とかそういうアワードみたいなものと、実際に中小企業の皆様方というのはすごく厳しいコスト競争をされているわけだから、それに融資のインセンティブとか、こう色々なやり方で多面的に取り組んでいただくと効果的だろうと思ったりします。

もう1つは安部委員さんご指摘いただいた、町内会の役員の方の任期の問題は多分両面の問題を含んでいると思うんですね。

安部委員さんご指摘になったように、ずっと同じ方々で町内会・自治会の運営が続くと、特定の人たちに負担が集中しているんだと思うんですね。

私も、一昨年町内会の組長をやってみたら、会長たちにはこんなに行事があるのかと思って、びっくりした覚えがあります。

町内会・自治会の自治制を尊重しつつ、だけど活性化できるように関わっていってどうお手伝いをする、あるいは助力をするということに、市としてどのように関わっていくかですね。

特定の方が10年とかずっとやるっていうのは、これは色々な意味で確かによくない。活性化という意味でもよくないし、特定の方に負担が集中する。

逆に言うと、多分周りの方たちが見ている、うっかり役員なんかになったら大変だと思うからきっと次の成り手も自然といなくなると思うんですね。

市としてのコミュニティへの関わりっていうところで、何か踏み出せるといいですね。

他の市では、特定の人に集中しないような取り組みがあるのでしょうか。

どこの市だったか忘れたんですけども、町内会とか自治会の規約のひな形みたいなものを市が提供していて、その中で特定の人に負担が集中しないように任期は原則として、

何年何期、連続何期までとするという規定をひな形に入れ込んでいる市も確かあったように記憶しています。

### 宮地委員

1年で替わる場所もありますが、1年ではなかなか理解できない。多いのは2年でしょうかね。

今言われたように、何期までとか、それから年齢75歳までとか、ルールを作っている場所もありますが、なかなかそのルールを守れない自治会もあって、自治会を継続するためにそのルールを変えていくというところもあるのが現実ですね。

### 湯浅会長

そうですね。

事務局から補足はありますか。

### 地域振興課長

本市では、例えば「任期が2年、通算3期の6年まで」というところまで踏み込んでいません。

ご相談があれば、「そういった地域もありますよ」ということで、地域に情報提供はしています。

### 湯浅委員長

おっしゃったように、1年で替わると、何もできないですね。前の方から引き継いだことをやっている間に、もう1年終わっちゃうという感じですね。

いずれにしても町内会・自治会、そういうコミュニティの運営の支援は大事なことだと思いますね。

### 中村委員

担い手の人材がいなくてということ、すごい課題になって、私たちもそうなんですけれども、自治会が正常に運営されるように、行政の方も考えていただいているんだと思いますけれども、現実には75歳で免除されることが守られているところは、ほぼないと思うんですよ。替わりたいけど、替われないという現実の問題があります。

この見直しの方向性の中で、「まちづくりを担う人材の育成」というところが、すごく重要だと思うんですよ。

この人材を養成するのに、1年や2年ではできないわけで、例えば先ほど言われた中であったSDGsの話も、基本的に人間の生活の全てだと思うんですよ。

だから、皆さん避けて通ることはできないし、その中で、それを広報していく中で、教育大綱の見直しの中で、高校や大学等に、SDGsがどういうものかということをお話しに行かれると言われていましたよね。

その中で、ボランティア精神をね、教育の中に入れていただきたいなと思います。

それができるまでに、その人たちが成人するまでに10年以上はかかるので、そこまで私たちが持ちこたえないといけないので、今いる人たちで、ムチ打ってがんばっていただかないといけませんね。新しい人たちを養成して下さるっていうことに力を入れていただきたいと思います。

というのが、日赤の啓発運動を小倉駅でしていた時に、色んな方と私たちも出会います。そしたら若い子が、「私も小さい時に、小学校とか幼稚園とかでこういうボランティア活動したんですよね」と、「その時のことを思い出します」とか、「その時のことを思うので協力します」とかって言われたので、小さい時にそういう精神を打ち込んでいくということは、大切なことかなと思ったんですよ。

でも、その時にはそれが重要だとは思いませんでしたけど、今皆さんが病気になって色々担い手が危なくなってきた時点で、ボランティア精神っていうのは形には見えないですけども、いざという時には絶対発揮するもので大事なものかなと、私はすごく最近思うんですよ。

### 湯淺委員長

ありがとうございました。

平成26年度の答申案で言うと14ページと15ページに、ボランティア団体への支援とあるので、これをもっと広げましょうということですね。ボランティアで参画するということを、例えば学校教育とかそういう場でもっと広めていく必要があるのではないかと、いう指摘ですね。

北九州市の小・中学校では、学校単位でボランティアをするとか、ボランティア活動について学校で取り上げたりっていう機会はあったりしますか。

### 総務課長

学校ごとに色んな活動されているというところはあると思うんですね。

例えば海岸の清掃をする等、地域に合わせたような形で、地域に入られている学校もあるとは聞いています。

### 湯淺委員長

なるほど。

学校ごとにそれぞれ色んな取組があるんですね。

### 総務課長

学校のある場所が、山の近くであったり、海の近くであったり、川の近くであったりします。

宮地委員の校区の大蔵小学校は、川をきれいにして蛍が生きれる環境作りをやったり、曾根のほうであれば、海岸清掃をしたりしています。

### 森川委員

特にユネスコスクールって言われるスクールが中心となって、地域活動とかSDGsをやっていると思います。

### 中村委員

ボランティアは、やっているだけではあまり意味がなく、いつからか周りの人とかが喜んでくれる顔を見るのが嬉しくなる時がくるんです。

そこまでいかないと、ボランティアの本当の楽しみってないと思うので、何てボランティアって楽しいのだろうというところまで教えていただきたいと思います。

最初は人の手伝いみたいな感じでやっていたけど、本当に喜んでいる人の顔を見るのが楽しくなった時からは、自主的にやるようになるんですね。

#### 湯浅委員長

今のご意見をどの箇所にどういうふうに反映するか、事務局と検討させていただきたいと思います。

#### 総務部長

ボランティアというものは、特に意識するようになったのは、東日本の震災の時です。あれからが特に災害後にどうするかを強く国民全体の問題としてですね、認識されはじめたんじゃないかと思います。

それ以降も災害だけではなく、色んな地域の活動とかでも、ボランティアの力、中村委員が、おっしゃったように、活動したことによって感謝されると、自分の存在を改めて認識するということになって成長していくと思います。

その辺りが、教育とどのようにつながっているのかは、市の教育委員会、また高校とかになると県の教育委員会の所管になりますので、その辺は所管局にも聞いて確認はしてみたいと思いますし、またそういった活動はですね、SDGs関連の説明にもございましたけれども、SDGsの目標に、色んな達成図にもつながってまいりますので、皆様にご相談させていただいて、案を次回に向けて考えさせていただきたいと思います。

#### 湯浅委員長

そうですね、よろしくお願いします。

倉地委員は、SDGsの活動を色々されていると思いますし、それから情報発信のSNSの件でもご意見いただいたと思います。

#### 倉地委員

これからの教育の部分でSDGsを取り入れるということが、先ほどありました。

これからの若い世代は、教育でSDGsを学ぶことができます。しかし、私たちの世代や社会人として社会に出られている方は、なかなかSDGsを学ぶ機会が少ないのかなと思います。実際、私たちがSDGsやESDをテーマにしてイベントを行いながら、普段感じていることは、なかなか教育として勉強する機会がなければ、言葉は知っていても中身を知らないし、何をやっているか分からないという方が結構多くいらっしゃって、そういう世代にどうやって北九州市のSDGsを伝えていくかが、すごく大事になってくるかなと実感しています。

私自身が大学で、部活動を通して感じているのは、行政とは全く関係ないところでSDGsを見たら、すごく親近感や興味が湧いてきます。

北九州市が「SDGsは、こんなことをやっています」って言われるよりも、身近な存在のものが、「SDGsをやっています」って言われたほうが、すごく興味が湧くなっているふうに思ったので、もっと自分たちの身の周りにあるものが、SDGsと関連しているんだよというように広がって、どんどん周りの人が興味を持っていてもらえたらいいなとすごく感じています。

現在、東京6大学野球が開催されていて、東京6大学野球連盟は、「SDGsの理念に賛成します」ということで、SNSですごく投稿しています。

元々SNSでも人気のあるアカウントなので、SDGsっていうのをすごく大々的に取り上げてもらっているのも、興味がある人にとっては、何だろうと思ってもらえる。

そういう意味で、全く違う視点からSDGsに取り組むことが、これからはすごく大事になってくると実感しています。

これから自分の活動にも、SDGsを取り上げたり、YouTubeにもSDGsの分かりやすい動画もいっぱいあって、そういうのも普及するためにも、SNS等を有効に使えるようにしていきたいなと思いました。

### 湯浅委員長

ありがとうございました。

なかなか鋭いご指摘をいただいたところがいくつかあって、本当にSDGsを行政主導じゃなくて、市民や企業が中心となって主体的に取り組んでいくための仕掛けがもう少し求められるのではないかというご意見と、良くも悪くも北九州市の場合、市が色々取り組むので、あまり市が前面に出過ぎると、逆にSDGsの理念から少しずれるかもしれないという鋭いご指摘ですね。

今のご意見もSDGsの見直しの方向性にどう取り込んでいけるか検討させていただきます。

### 安部委員

せっかく色んなものが出てきて、SDGsも知っている人は知っているけれども、本当に市民に浸透させるならこれだけでいいと思うんです。

SDGsのマークだけを大きくして、市政だよりなどに入れて、「北九州市は賞を取りました、世界の中で一番早く」という言葉を追加すれば、皆さんは気が付くんじゃないかなと思ったんですよね。

あと、自分でこの漫画を英語に変えて、中学校に持って行ってみようかなと思ってます。そうするとね、同時に子どもたちに言葉も教えられるし。

### SDGs推進室次長

英語版もありますので、必要な時はお声掛けください。

SDGsは先ほどお話しさせていただきましたように国連のアジェンダです。

市長も国連で英語教育の中でSDGsを取り入れると非常に分かりやすいんじゃないかと申しております。今からグローバル人材の育成も大切になってきますので、北九州市だけ日本だけの取組ではなく、世界各国でやらなければいけないというところをいくと、やはり英文表記っていうのが、これからは必要になってくると思います。

### 安部委員

だから、この漫画そのまま使ってね、中の文字だけ英語で書いていると中学生の勉強になるかなと思います。

### SDGs推進室次長

ありがとうございます。

## 安部委員

色々あると戸惑うので、このマークは本当にあか抜けていいと思います。

## 八幡委員

市役所の玄関に貼っていますね。

## 湯浅委員長

安部委員のご意見は、SDGsを教育で活かす1つの方法、そのグローバルな人材を育てる方法と、市のブランディングの方法で、ある種ブランディングとか広報ってシンプル化したほうがいいよというご指摘ですよ。

そこも事務局と検討してみたいと思います。

八幡委員は、ご意見いかがでしょうか。

## 八幡委員

SDGsについてですが、先ほど表彰とかがあるっていうのはすごいいいなと、企業側にメリットもあっていいなと思います。

最近、娘と一緒に「ていたんポイント」をまちなか避暑地で集めていて、蒲鉾屋や商業施設でも配ったりしています。

これ別にSDGsとやっていることが被るのであれば、ていたんポイントではなく、SDGsポイントに変えるだけで、SDGsという名前をもっと知ってもらえるんじゃないかなと思います。

先ほど倉地委員が、名前は知っているけど中身を知らない方がいるというお話をされていたんですけども、確かにその通りだと思うんです。

まだまだ認知度が低い言葉ではないかと、私自身は思っていますので、ポイントを変えるだけであれば、特にそこまで費用も掛からなくていいんじゃないかなと思います。

ていたんポイントを集めると、ガラポンが1回できて、ていたんグッズとかが当たります。そこにその協賛している企業から商品を出してもらえれば、その広告にもなるでしょうし、知合いに「何やっているの」「いや、ていたんポイントを集めています」という話をしたら、「何ができるの」「ガラポンができます」、「何もらえるの」「いや、ていたん人形はいらないわ」みたいなことを言われてしまったこともあります。

企業が出してくれるものがあれば、もっと色々な方にとって、知る機会が増えるんじゃないかなと思いました。

コミュニティのところですが、役員の任期が長いのはどこも同じで、私の町内会では、前の町内会長が亡くなってやっと後任が決まったこともありました。

モデル規則などを作るのは難しいでしょうから、運営の手引きとかですね、市が「こんな困った時は、こんなのどうですか」というのを作ると、北九州市が言っているから2期4年で辞めようよみたいな、言い訳も立つかなと思いました。

役員もいきなり町内会長になるっていうのは難しいと思いますので、副会長に1回やってもらってから町内会長になってもらうのに、こういう任期でこうなっているから、次こうしてほしいというアプローチあってもいいのかなとは思っています。

私自身が自営業で士業をしている関係で、色々な社会貢献をしたがる団体を知っています。

そこをもっとうまく活用すれば、お金も掛からずにコミュニティを活性化できるんじゃないかなと思います。

ないかなと思いますし、私も地域の草刈りに行くんですけども、知り合いが全くいない状態って行きづらいんです。

やはり知り合いがいたら、頼まれたら、「空いていけば行くよ」みたいな形ですので、土業と何かコラボレーションすれば、顔見知りになって、30代・40代の方々もそういうところに参加しやすくなっていくのではないかなと思います。

土業は、社会貢献する場所を一生懸命探していると思います。

ちょうど、私も土業で役員をさせてもらっているんで、そういう場所とか探しているほうです。そういうのがあれば、土業側がお金を出して色んなことができるというのはあるかとは思いました。

### 湯浅委員長

皆様のほうで、どの項目でも結構ですので、ここはもう少しポイントを変えたほうが良いのではないかなど、色々ご意見がありましたらお願いしたいと思います。

### 森川委員

SDGsについていいでしょうか。

現状の北九州市の取組みは、すごく頑張っていて、素晴らしいなと思っているんですけども、今は第一段階で、SDGsのアイコンに対して自身の活動をカテゴライズするという段階だと思うんですよね。

学校でもそういうのがどんどん進んでいるというお話も聞いていますし、素敵だなと思うのですが、おそらくカテゴライズして、そこから先に進むということには結構ハードルがあると思うんですよね。

そういうところをサポートをしていただきたいなと思っていて、そういう面では「SDGsクラブ」を立ち上げてくださっていることは、本当にいいことだなと思っていて、そのサポートがどういうふうに行われるのかも、皆さん本当に注目しているので、その強化を頑張りたいなと思っています。

例えば、実践者の中では、取り組みやすい事例として、飲食店であれば紙ストローとか取り入れているところもたくさんあります。

普通のストローよりも、10倍ぐらいのお値段がして、取り入れるのにも、結構勇気がいるんですけど、「取り入れてどうですか」とヒアリングをしてみると、品質がまだまだ追いついていなくて、1本使っているうちに折れて、「もう1本ください」と変えないといけなこともたくさんあるみたいです。もしかしたらそういう課題は個人だけでは知り得ないような情報を共有できればと思っていて、先ほどの「SDGsクラブ」のような、広く窓口があればいいなと思っています。

### 湯浅委員長

森川委員からご指摘のあった、SDGsを实践する上での市民や企業の方々の情報提供や支援というのは、現状で市のほうで何かされていることはありますか。

### SDGs推進室次長

森川委員からもお話ありました、「SDGsクラブ」の中で、現在会員が700以上いますので、その中でご自分たちの活動を発信できるようにしております。

それから、交流会というのを年に2回から3回開催させていただいておりますので、そ

の中で顕著な活動の発表の機会を設けたり、マッチングの機会を設けたりしております。

先ほどから何度も申し上げているように、北九州市は経済分野をどうにか底上げしたいということで、B to Bの部分もあればB to Cのところもあると思うんですけど、そこから辺のマッチングをうまくできるような、本当の仕組みづくりを、来年度に向けて構築しているところです。

#### 湯浅委員長

森川委員からご紹介いただいた例は、まさにSDGsを実践したいんだけど、紙のストローはプラスチックのストローよりも、現状はコストが高いし品質も劣る。だからそういう品質のよい製品をつくっているようなところと、それを使いたいってところをそのB to Bのマッチングが上手くいくとすごくいいなという事例ですよ。

製造事業所側にも「こういうようなニーズが現実にありますよ」という機会があれば、「じゃあうちも紙製品とか、そういう紙企業関係に進出してみましょ」という企業も出てくるかもしれないですよ。

今のご意見もSDGsのところに工夫して、反映してみたいと思います。

他に皆様いかかがでしょうか。

#### 中村委員

少し議題から外れているかもしれませんが、質問します。

広報で、市政だよりがあると思いますが、市政だよりを配ることがすごい大変なんですよ。いろいろと事情があって、状況も違うと思うんです。

市政だよりは、地域の事がいろいろと載っているんですけども、北九州市はホームページで見れますか。

#### 広報課長

市政だよりは、ホームページ上でも見れます。また、電子書籍もありまして、「マチイロ」といったような4つほどのアプリからも、自由に見られるようになっております。

ホームページでは、過去全部、昭和38年9月のはじまった時から、全て掲載しています。

#### 中村委員

では、配ることは省略せず、ホームページもありますよってということですかね。

#### 広報課長

自治会に入られていない方もいらっしゃいますので、現状のまま配布とホームページなどでお知らせします。

#### 中村委員

経費的に削減できるとかいうわけではないんですかね。

#### 広報課長

現時点ではそうですね。

### 湯浅委員長

市のほうから自治会・町内会にお願いして市政だよりは配っていただくんですね。

### 広報課長

市が自治会にお願いして、自治会を通じて配布という形をとっております。

### 湯浅委員長

なるほど、その時に少し委託料みたいなのを自治会のほうにお払いしているのですか。

自治会に加入していない方もいると思いますが、加入していない方も含めて、全員に自治会でお配りするものなんですか。

### 地域振興課長

基本的には自治会が配布するのは、自治会加入世帯です。

### 中村委員

今は自治会じゃなくても、ムーブなどにも、北九州市は置いていますよね。

欲しい方が取ればいい形になっていますよね。

だから1軒、1軒配って取り敢えず仕事終わりました、そして委託料いただきますとかね、何かそんなシステムをね、将来は変えたほうがいいかなと思います。

だから、そんなふうにホームページ等で見られるんだったら、見たい方が見たらいいっていう感じにしたほうがいいかなと思って、すごいあれお金かかるみたいで、無駄なものもあるのかなと思ったんですけどもね。

### 宮地委員

意見が違うんですけども、市政だよりを配るというのも目的の1つではあるんですけども、私たちはポイントを変えて見ているんです。

というのは人とのつながり、隣とのつながりとかいうのが、小さい組で1つ、10所帯ぐらいあるんですね。そういうところが、対面して話すという機会が、どんどん減ってきています。

だから、自分たちのエリアは、時間を掛けてでも負荷を掛けてでも、渡していくことは必要だと思います。

だから、自治会を脱会されている方もおりますけれども、自分たちが全てじゃないですけども、脱会した人もちゃんと届けるような動きをしています。

大変だからというところで切ってしまうと、どんどん大変さが広がってっていきます。負荷をかけても、大事なことに時間かけるようにしているんですけどもね。カムバックする人もおりますよ。

その人に負荷を掛けるんじゃなくて、みんなでサポートし合うようにしていますね。

簡単に会合を止めるとか、すぐに変えるとかいうのは、私は、ちょっと違うんじゃないかなという思いはありますよね。

将来色んなシステムが発達して、それを使える人たちが増えてくるといいんですけども、今の段階で高齢者は多いし、情報を自分で取得できる方っていうのは少ないと思うんですね。

将来的には、中村委員が言われたような形になるかも分からないけれども、それ以上に

時間や負荷をかけてでも、地域の繋がりを大切にしたいですね。

### 中村委員

昔はですね、きちんと1軒ずつ回って声掛けできていた時代もあったと思うんですよね。

今はそういうのがちょっと見受けにくいのと、それからそれを取りに行く婦人会長さんや自治会長さんたちがね、もう人材不足で無理やり役員をさせられています。

みんな高齢だから、途中怪我したらいけないからタクシー使って行って帰ってこいっていうふうに、それを自治会費で認められているところもあるんですよね。

それぐらい人材が足りないでいるところに、配布の仕方っていうのは少し考えられたほうがいいかなと思ったんですけどもね。

### 宮地委員

その課題をどういうふうな形で話し合うかっていうところが、大事な部分になってくるんじゃないかなって思っていますけれどもね。

その辺を話し合うと本当の意味でつながってくるというか、仲間が増えてくる形になると思うので、だからベースはやはり少なくとも、個人差はあるにしても同じ方向を向けるような仲間をどれだけ、地域の中でつなげていってかかっていうところを、大事にすることが大切かなって思いますよね。

月に2回ですけども、結構2回っていうのは早いんですよね、期間が。

だから、明日また10月の15日号の分来ますけれども、そういう意味では本当に早いんですよね。

それをやはり食欲に活かして使うっていうか、地域がそんなふうに活かして使う方法を考えるっていうほうが、ポイントかなと思います。

### 湯浅委員長

ご指摘いただいたように、その地域によっては、市政だよりを配る人材がもういなくなってきて、実際もう本当に取りに行くのも大変になってきている、町内会・自治会もあれば、逆にそれを機会に1回脱会しちゃった方をまた戻ってきていただけるような、そういう住民コミュニケーションの接点になっている自治会もあるんですね。

だから、市全体としては、それぞれの自治会・町内会で事情が違うので、配る人手がなくて困っているところには、どのようにしたらよいか、市としてサポートする必要があると思います。

逆にそれをコミュニケーションの機会として使っているのであれば、ぜひそれを今後も維持していただくのはいいと思います。

それぞれの自治会・町内会に合せて、お年寄りの中にも「紙はいらない」、「ごみが増えるだけだからいらない」という人もいるだろうし、「いや、紙のほうが見やすい」という人もいるだろうし、多様性に配慮した広報活動をしていかないといけない。

現状はそういう時期なのかなという印象があります。

色々ご議論いただいて、答申案も段々と固まりつつあると思います。

何かございましたら、後ほどご指摘いただくとしまして、最後に全体の結論として条例の見直しをどうするかというところですね。

この部分、先ほど事務局から叩き台として案を説明していただいております。

色んな課題、様々な課題を委員の皆様から、ご指摘いただいているんですけども、自

自治基本条例は基本的な理念を書いたもので、自治基本条例自体がまずいので、それを改正する必要があるという話ではなくて、自治基本条例の理念を、どのようにして実際に市政や地域で活かしていくかというご指摘だったと思います。

自治基本条例自体を、改正すべきだというようなご意見ではなかったというふうに思いまして、事務局と相談してこういうような案にさせていただいております。

ここのところはいかがですか、皆様から最後の結論の部分のご意見等はいかがでしょう。

## 安部委員

多様性という言葉は、本当に都合のいいように使われている。

例えば、「自治会に入らないんだったら、ごみ捨てさせない」とか、そんな簡単なことすら、「多様性だから、ごみを捨てていいよ」と認めるのは、いかがなものかと思いますね。

コミュニティを大事にするには、「このルールを守ってください、守れない人はもうペナルティですよ」くらいのことをしていかないと、ずっと先の未来にいい時代は来ないと思う。

もう1度今ここで立ち止まって、本当の多様性って何なのかっていうところを考えないといけない時期だと思いますよ。

私は、まちの中に事務所があるものですから、自治会の順番も受けているんですけども、どんどんいなくなって、個人の家がないから、私のところでずっとやっているんですね。

マンションの人たちにも、「すみません、ごみ捨てられるから、市政だよりを受け取ってください」って言って強引に押し付けるんです。

そうするとマンションの管理人は、仕方なしに持っていかれるんですけども。

その中に北九州市の情報いっぱいあるわけじゃないですか、「知らなかった」、「分からなかった」とか絶対言わせないぞって、それくらいの気迫がないと、自分たちのまちは守れませんよ。

高齢者でも、「子どもがいらっしゃるでしょ、子どもさんに協力してもらってくださいよ」ってなるわけです。

答えはいっぱいあるんだけど、できないっていうことは言わないほうがいいと思う。

多様性で何もかも許されるわけじゃないから、もう少し規律っていうものを見直すっていうのは大事なことなんじゃないかなと思っております。

## 湯浅委員長

安部委員のご指摘で、私も思ったのですけれども、頭から別に条例改正は必要ありませんということではなくて、実際この委員会でもご紹介しましたけれども、他の自治体では町内会・自治会に入りましょうという促進条例みたいな動きもあるということも一言触れていていいのかなという気がしますよね。

安部委員がご指摘になったことで関連して言うと、こちらの答申の案のほうで、最後17ページですね。

17ページの1番下の段落で「なお委員会の役割や」というところで、「主に条例の規定に基づく市の取り組みを中心に議論してきたが、その過程において市民のあるべき姿についても意見が出された」とありますね。

まさに市民のあるべき姿、今もご意見をいただいたところだと思いますし、住民基本台

帳上の市民だけではなくて、そのマンションであれば、分譲するデベロッパーだとか、管理人であったり、市の外に住んでいる所有者も、この条例上、そういう方々も「市民」というふうに捉えているので、そういう方々にも、市民として一定の責務を果たしていただきということが、この条例の理念だと思います。

ご指摘にあったマンションは典型だと思うんですね、デベロッパーや賃貸のオーナー、管理人の協力なしにはできないですね。

他にも、全体的な構成も含めまして、いかがでしょうか。

あとからでも、言い忘れたということが、もしおありでしたら、事務局にご連絡いただければと思います。

最後に、私自身の所感も含めて本日の委員会のまとめをさせていただきます。

まずSDGs 関係は見直しの方針が、まだあまり明確になっていませんでしたが、今日色んなご意見をいただきましたので、それを元に事務局とも相談しながら、見直しの方向性を詰めていきたいと思っています。

色々ご指摘いただいたのは、市民や企業が自らの取組みで、SDGs が推進できるようにするという、それから、情報発信の仕方の工夫であったり、あるいは企業を巻き込むための色んな仕掛けをご指摘いただいたかなと思っています。

それから、答申案の見直しの方向性についても、色々ご意見をいただきましたので、こちらをベースに少し私と、森委員と事務局で相談をさせていただいて、答申の最終案に近いものを次回お示しして、最終的に決定できるようにしたいと思っています。

私の所感として言いますと、自治基本条例ができて、今回で見直しの作業も2回目になりますね。

自治基本条例自体の認知度が少し低いという問題はあるのですが、市民の自治を大切にしていこうということは、10年前に比べると、だいぶ深まったように思います。

それは外部的な要因では、非常に自然災害が増えたことや色んな社会構造の変化で外国人の方が増え続けているというのものもあるし、前から言われている高齢化は、10年前に比べると、ますます進行してきているので、本当に市民の皆様方、市民の一人一人が自分たちの北九州市をどうしていくかというのを、自分たちで行動しないとイケないという意識が非常に強くなったような印象がありますね。

10年前は、市役所が何とかしてくれるだろうという意識が、北九州市は強かったような気がしていましたが、すごく変わったなと感じます。

そういう意味でいうと、この自治基本条例が、確実に役割を果たしてきたのだと思いますし、それについて、委員の皆様方に色々ご評価をいただけたのかなと思っています。

今回は、答申の最終決定ですので、次回までに答申案に近いものを事務局と森委員と私で作成をさせていただいて、事前にお送りをさせていただきます。

何かご意見がありましたら、事務局にお寄せいただければと思っています。

最後になりますが、事務局の方から報告はありますか。

## 総務部長

今日、色々SDGs等を含めて、委員の皆様方から貴重な意見等をいただきましたので、いただいた意見等を踏まえて、答申案を作成させていただきたいと思っています。

これは直接議事とは関係ないのですが、北九州市におきましても、最近話題のプラスチックごみについて、10月1日から率先して、プラスチックごみを削減しようという取組を始めております。

特に会議において、今まではペットボトルのお茶を皆様に出して、「どうぞお飲みください」としてきたのですけれども、そういったペットボトルを見直しまして、アルミ缶の北九州市の水をお配りして、紙コップでお飲みくださいという形にしております。

あるいは、本日の森川委員のようにマイボトル等を持参したり、私もペットボトルに自分で朝、麦茶を入れて飲んで再活用するような取組をしております。

こういったことも、自治基本条例の取組の1つに繋がるのではないかなと思っております。

これからも北九州市は、今日いただいた意見等を踏まえまして、また頑張ってまいりたいと思いますので、私から今日の所感のようなことを報告させていただきました。

#### **総務課長**

それでは、次回の日程について、皆様の調整させていただいております。

調整させていただいた結果、12月17日火曜日、13時15分から本日同様、こちらの特別会議室Aで開催したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

また改めてご案内させていただきたいと思っております。

#### **湯浅委員長**

ありがとうございました。

それでは、この辺りで委員会を終了ということにさせていただきます。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。